

高年女性の服装に対する意識と志向性との関係

○小田巻淑子^{*}、小林茂雄^{**}

(*田中千代学園短大、**共立女大)

<目的>近年、豊かな社会を背景に高年女性の服装に対する関心や意識は高まりつつあるといわれる。しかしその反面、高年女性向けのおしゃれな衣服が少ないという不満の声が多く聞かれる。そこで本研究は高年及び高年に移行しつつある女性を対象におしゃれに対する意識や服装の志向性について調査を行い考察した。

<方法>首都圏在住の高年女性103名(50才代後半23名、60才代62名、70才代以上18名)を対象に1995年9月～10月に質問紙面接法によるアンケート調査を行った。主な調査内容は①服装に対する意識(25項目、3段階評定尺度)、②おしゃれ意識(10項目、4段階評定尺度)、③外出着の好み(24服種、4段階評定尺度)などである。なお外出着の写真は予備調査をもとに、婦人雑誌から選定した。以上の調査データをもとに外出着の好みと個人属性(年齢、職業の有無など)の関係、服装に対する意識とおしゃれ度の関係について分析した。

<結果>外出着の好みは因子分析により3つのグループ、すなわち、①色彩・デザインともに華やかなグループ、②色彩・デザインともに落ち着いたグループ、③色彩・デザインともに地味なグループに分かれた。これらのグループに対する好みと年齢、職業の有無などの間には一定の関係がみられた。また服装に対する意識は因子分析により積極性、保守性、自主性、体型、年齢、自己表現の6つの基本的因子が抽出された。これらの因子とおしゃれ意識の間には相関がみられたが、体型の因子とおしゃれ意識の間にはあまり相関がみられなかった。